

米沢工業会報



里山

米沢の西に位置する田沢には、全国的にも珍しいほど『草木塔』が残っています。

田沢の山は昔、米沢中で利用される薪の材料を切り出す大きな燃料庫のようなものでした。草木塔は今では『木や草に感謝し建てられた』と、やや美談のように語られていますが、そもそもは森を切り開いたことへの恐れ、鎮魂の意味が強かったのではないかと思います。私の祖父も最後期の『木流し』として働いていました。

主体美術協会会員 伊藤 博昭



一灯照隅

荒川産業株式会社

取締役相談役 荒川 洋二 (S昭48)

母校の思い出 1968年入学、翌年1月は東京大学安田講堂攻防戦。山大でも大学封鎖があった。山岳部に入部、コーポルトヒュッテ再建が蔵王八方沢源頭で始まり、歓迎登山が背負子での資材運搬だった。精密工学科では単科寮へ入寮。片五十騎の旧町名が残るマイウエイ派?の工機寮は定員20名。卒業時に10名の補充ができず廃寮とした。賃料、寮母人件費も寮生の自主運営の困難さ、人を雇用する重圧。寮長、書記の心労に心から感謝。山岳部で3年時冬の鳥海山で1名遭難、4年時部長を受けて山形下宿からの汽車通学、那須康雄先生には多大な迷惑をおかけしました。何とか卒業させて頂き深く感謝申し上げます。機械系白布トリアルが梅宮弘道先生提言で始まる。青春時代の思い出は切なく恥多く、汗と涙、悔恨のモラトリアム。

以来50年、以下のような事業を通じて少しは世の為に
なったのかなと思うこの頃です。

わが社の概要とテーマ 弊社は福島県会津地区で鉄リサイクル業を営んでいる。祖業は生藷仲買業と女工数名の生糸(藪から解した)業、創業128年目。リーマンショック三か月で価格1/6に暴落、相場乱高下の業界で業績準化のために多角化を図る。昭和電工(株)東長原、日曹金属化学(株)会津などの設備補修請負。県内唯一の廃タイヤ処理などの産廃処理、自動車教習所も二校経営、グループ企業12社社員数240名。田舎型リサイクル、ふるさと循環型リサイクル、地域に元気のサイクルを、等のテーマで運営してきた。

伝教大師最澄の「一灯照隅」から「照一隅」を刻字にして全24事業所に掲額している。国連サミットで採択されたSDGsは弊社の事業の実践そのものだ。

会津の地域特性 会津地区は福島県西部、県の面積の40%、人口は13.5%の25万人。明治初期の若松県は越後東蒲原郡も含み6,373km²と群馬県より広い過疎地域。集荷コストは隣接地区より劣位にあり重い課題だ。

月見橋いも庵 喜多方市田付川月見橋に昨年開店した焼き芋屋。甘味濃縮の為に「焼き芋を干芋に」、ピーナッツのボン菓子、黒ニンニクなど(株)蔵のまちな農園の有機栽培の産物だ。甘い芋ペーストを掛けたソフトクリームは夏の人気物。無砂糖の甘さを追求している。

蔵のまちな農園 有機堆肥は農家に使って頂く動機が難しく、実証実験をしている。地域で田の集約化が進行中だが畑の集約化は課題山積だ。有機質不足による地力低下が喧伝され、農水省が有機農業に力を入れ始めたのが心強い。農村再興の一助にしたい。保有畑3ha

コンポストセンター 食品残渣堆肥化施設。ドイツにも見学に出かけた。リーマンショック時に買収した平和物産(株)と共に、会津若松市のブランド米、JAニラ部会、あいづ生協、生体農業研究会、酒造会社等のOEM堆肥生産。東日本津波復興の花卉栽培にも使われた。

NPO法人ステップボード メンタル、身体、知的障害者のB型障害者就労訓練施設。定員25名。ここから社会復帰した社員は農園の有力な戦力だ。利用者送迎が最大の負担、冬の送迎は交通事故のリスクが常にある。共同宿泊施設を12月利用に向けて工事中。障害者の自立支援も住みよい地域社会づくりの一環だ。

(株)相双スマートエコカンパニー 2018年福島県双葉郡大熊町に設立。原発事故避難地域の廃棄物処理施設。3.11(福島県では原発爆発の3.12,14との表現が適切だと思う)災害復旧のために、DOWエコシステム(株)、太平洋セメント(株)、(株)クレハ環境と地元企業の共同出資。弊社は4名を出向。サポートの為に郡山市の弊社施設拡充を急いでいる。

(株)ウエステック 1992年喜多方広域市町村圏組合粗大ごみ処理施設の低コスト運営を目的に設立。昭和電工(株)、本田金属技術(株)、三井金属鉱業(株)と地元の共同出資。その後木質系廃棄物の中間処理工場での資源化。今年5月、山林未利用材の燃料チップ製造を目的に南会津森林資源(株)を南会津町に設立。目標年間加工量3万m³で操業を開始。地域の欠けている輪を繋ぐ。

リサイクルミュージアムくるりんこ 1992年本社移転が商調協を通らず断念。四面楚歌の中で地域への啓蒙、情報開示の重要性に開眼。会津大学教授夫人杉山典子氏にプランニングを依頼し、「小学生に理解でき主婦に馬鹿にされない」をコンセプトに当社三階に開設。当時民間でリサイクルや環境テーマの施設は国内唯一。小学4年生が見学に訪れ、累計来場者15,563人は当社の貴重な財産だ。

この展示が発展し、ガラスくずリサイクルで行政の初期投資ゼロ、運営も分別予算なしの低額で済んでいる。不法投棄減少の為、廃家電回収トラック便を3方部へ運行。コンセプトという概念は、その後の事業展開に大きな影響をもたらす。リサイクル推進協議会から表彰を受けた。

365日24時間リサイクルBOX 市内数か所に無人の回収所を設置。喜多方市の古紙リサイクルの過半を行政経費無償で回収、収益金を地域各団体に毎年200万円以上還付。業界紙によれば、この回収システムは国内初の事例との事。

最後に、**山形大学国際事業化研究センター** 柴田孝教授の「生産性を6倍に上げると国内生産でも十分競争力がある」方針の下、喜多方市でリーン生産方式の指導が毎年続いている。年一社だが地域企業水準向上に大きな効果を得て、市役所ホールで行われる公開成果発表会は米沢工業会員として大きな楽しみである。

略歴 1949年8月 喜多方市生 現在72歳
1973年3月 山形大学工学部精密工学科卒
1975年2月 喜多方市荒川産業(株)入社
1982年2月 同 社長就任
2020年9月 同 取締役相談役就任